

[シラス]

1. 経年経過及び平成16年7～9月期の漁況の経過

【西薩海域，志布志湾海域】

バッチ網漁業の漁獲量は，西薩海域では平成11年の6,060トン进行ピークに減少傾向を示しており，平成14年は1,106トン，平成15年は低調であった前年並みの937トンでした。志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示しており，平成14年は396トンまで減少したが，平成15年は842トンまで増加した。

今期の西薩海域では，カタクチイワシシラス主体で422トンの水揚げで，前年の119%及び平年の92%でした。志布志湾海域では，カタクチシラス主体で193トンの水揚げで，前年の87%及び平年の102%でした（一部未集計）。

2. 平成16年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は，カタクチシラスでしょう。来遊量は，西薩海域では前年を上回り，平年並みで，志布志湾海域では前年，平年並みかやや下回るでしょう。

（根拠）

平成16年8月に実施した卵稚仔調査結果（8月4日～6日）では，カタクチイワシの産卵や稚仔魚の分布は，北西薩海域で15年を上回りました。

カタクチイワシ親魚の来遊は，西薩海域では前年を上回り，平年並み，太平洋側では前期の経過から前年，平年並みかやや下回ると思われます。

なお，マイワシシラスは，親魚資源が全国的に低水準であり，資源回復の兆候がみられないことから，漁獲は期待できないと考えられます。

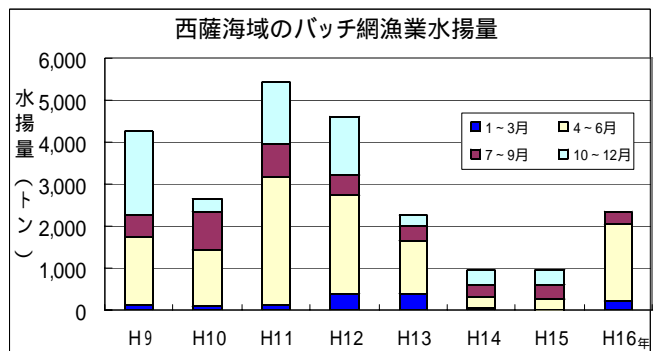
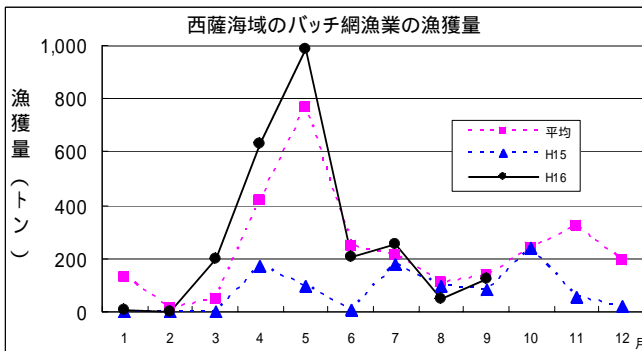


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月までの水揚げ量を使用。

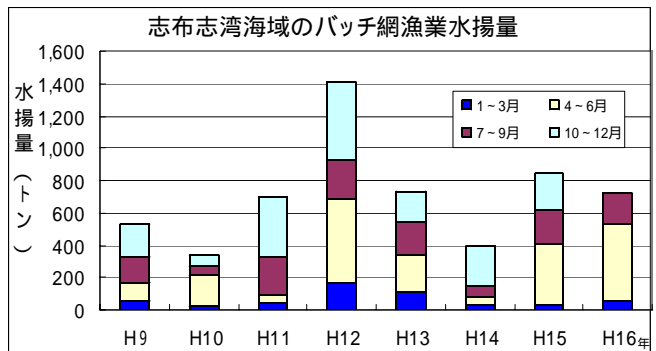
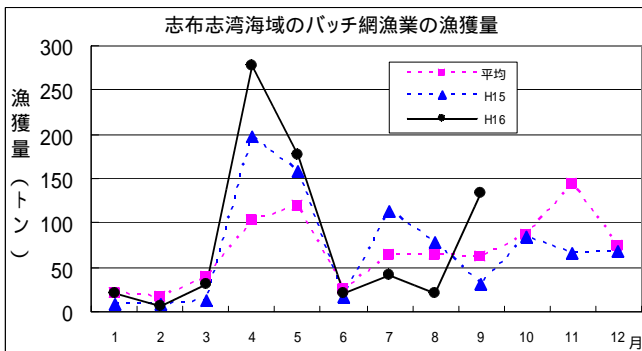


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月までの水揚げ量を使用。